

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	住吉区
学 校 名	大阪市立長居小学校
学校長名	長谷川 光洋

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長居小学校では、第6学年 87 名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、国語科において大阪市平均より1ポイント、全国平均より0.8ポイント高く、算数科において大阪市平均より1ポイント、全国平均より0.5ポイント高かった。
無解答率は、国語において大阪市平均より1.1ポイント高く、全国平均より0.2ポイント低かった。算数科において大阪市平均より0.3ポイント高く、全国平均とは差がなかった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕「A 話すこと・書くこと」の正答率は全国平均より3.3ポイント高く、おおむね習得できている。日頃の話し合い活動を中心とした授業の積み重ねの結果といえる。「B 書くこと」の正答率は全国平均より5.5ポイント高かったが、無解答率が全国平均より高いことから、二極化の傾向が見られる。「知識及び技能」の漢字の問題でも、無解答率が全国平均より高く、課題が見られる。
〔算数〕すべての学習指導要領の領域、評価の観点で、全国平均と大きな差は無かったことから、おおむね習得できているといえる。問題形式別でもほぼ同様の結果であったが、記述式の正答率は「変化と関係」で全国平均より11ポイント高く、「図形」で8ポイント低かった。問題によって差があった。

質問紙調査より

〔基本的な生活習慣〕
生活リズムが整っている児童は多い。就寝・起床時間や朝食を食べる等、今後も家庭と連携し、安定した生活を送ることができるよう、学校から啓発していく。
〔自尊感情・規範意識〕
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答率は91.2%と全国平均より高かった。指導者との良好な人間関係が築けている。しかし、将来の夢や目標、人の役に立つ人間になりたいと思う気持ち等、自信を持って言える児童は少ない傾向にある。心の優しさを大切にしながら、将来に向かって進んでいけるようにキャリア教育を積み重ねていく必要がある。
〔学びの充実〕
「友達関係に満足していますか」の最も肯定的な回答率は70.3%と全国平均より高かったが、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の最も否定的な回答率も15.4%と全国平均より高かった。学習での話し合い活動を多く取り入れ、違いを認め合えるように指導する。
〔家庭学習・学習習慣〕
「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の否定的な回答率は39.6%と全国平均より高かった。学習に関して自主性・自立性を高められるように指導を継続する。
〔学校・家庭・地域の連携〕
「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の否定的な回答率は52.8%と全国平均より高かったが、今夏の地域行事には大変多くの児童が参加していた。コロナ禍を経て、今後多くの行事が計画されているため、肯定的な回答率が高まると推測している。

今後の取組(アクションプラン)

話し合い活動を多く取り入れた学習を進めるとともに、読み取ったことを要約する力や考えを表現できる力を高めていく。学習効果を上げるために、ICTの活用や図書室の環境整備を継続していく。
児童の活動の姿や学校行事の様子を、学校だよりや学年だより、学校ホームページを活用し、積極的に情報発信を行う。学校と家庭と地域が連携し、児童の生活や学習を支えていく。特に、児童を認める評価や声を掛けることで、自尊心を高めていく。安全・安心な学校であることを基盤としながら、「学校が楽しい」「勉強が楽しい」といきいきと生活できる学校環境づくりを推進する。